私たちが暮らす、ふるさと都城。

毎日学校に通い、家族や友達と笑い合い、いつもと変わらない日々を過ごす。私たちは、そんな毎日を当たり前のことだと思っているかもしれません。

しかし、８１年前、この都城で、今の私たちには想像できないほど悲しい出来事が起きました。
１９４５年８月６日。この日の昼から夕方にかけて、都城は大空襲に襲われました。焼夷弾が落とされ、機関銃による攻撃も行われ、多くの尊い命が失われました。住み慣れた家を失い、大切な家族と離れ、深い悲しみの中で過ごされた方々がいました。

あの日、空襲に遭われた方々は、どのような思いだったのでしょうか。家族の無事を願い、大切な人を心配し、また平和な日々が戻ることを願っていた方もいたと思います。その恐怖や悲しみを、私たちがすべて理解することはできません。

それでも、あの日、都城で暮らしていた一人ひとりに、大切な家族や友人がいて、それぞれの夢や希望があったことを、私たちは忘れてはならないと思います。
戦争で大きな被害を受けたのは、都城だけではありません。同じ８月６日には広島に、３日後の８月９日には長崎に原子爆弾が投下されました。多くの命が失われ、生き残った方々も、戦争が終わったあとまで続く苦しみと向き合ってこられました。

戦争によって失われたものは、命だけではありません。家族と過ごす時間、友達と笑い合う日々、将来の夢、そして明日も安心して暮らせるという希望までもが奪われました。
私たちは、戦争を実際に経験していない世代です。だからこそ、当時の方々の苦しみを本当の意味ですべて理解することは難しいかもしれません。しかし、経験していないからといって、戦争について知らなくてもよいわけではありません。

過去に何が起きたのかを学び、戦争を経験された方々の話に耳を傾け、当時を生きた人々の思いを考えること。それが、今を生きる私たちにできる大切なことだと思います。
８１年前に都城で起きた悲しい出来事を、過去のこととして終わらせてはいけません。今、家族や友達と過ごせること、安心して学校に通えること、毎日笑顔で暮らせること。そうした日常が決して当たり前ではないことを、私たちは心に留めておきたいです。

そして、これからも、このふるさと都城に、笑顔があふれ、誰もが安心して暮らし、自分の未来に希望を持てるまちであってほしいと願います。
私たち一人ひとりが、命の大切さと平和の尊さについて考え、その思いを次の世代へと伝えていくことが大切です。私も、身近な人を大切にし、互いを思いやることから、平和を守るためにできることを考えていきたいと思います。

最後に、戦争で亡くなられたすべての方々のご冥福を心からお祈りいたします。命の重さと平和の大切さを胸に刻み、二度と戦争を繰り返さない未来をつくっていくことを誓って、これを私の平和へのメッセージとします。

都城市立祝吉中学校
今村隼太